

既存の集合住宅のストックを活用して、アフターコロナのライフスタイルを見据えた 小さな交流拠点と住まいを整備し、その運営方法を検討する

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、子育て世帯では子どもの居場所や親の職場の確保、高齢者世帯では外出機会の減少による孤立や心身機能低下が新たな課題となっている。
- 本提案では、従来の賃貸住宅では解決できないこれらの課題に対応するため、集合住宅の空き住戸を改修して交流拠点を整備するとともに、交流拠点と連動した子育て世帯、高齢者世帯向けのモデル住戸を整備する。
- 交流拠点利用者の満足度調査等を実施して施設・住戸整備の検討材料にするとともに、交流拠点の整備・運営に係るマニュアル等の作成・公表も行う。

事業概要

代表提案者 株式会社インターシステム

共同提案者 東京ソックス株式会社

事業実施場所 東京都福生市

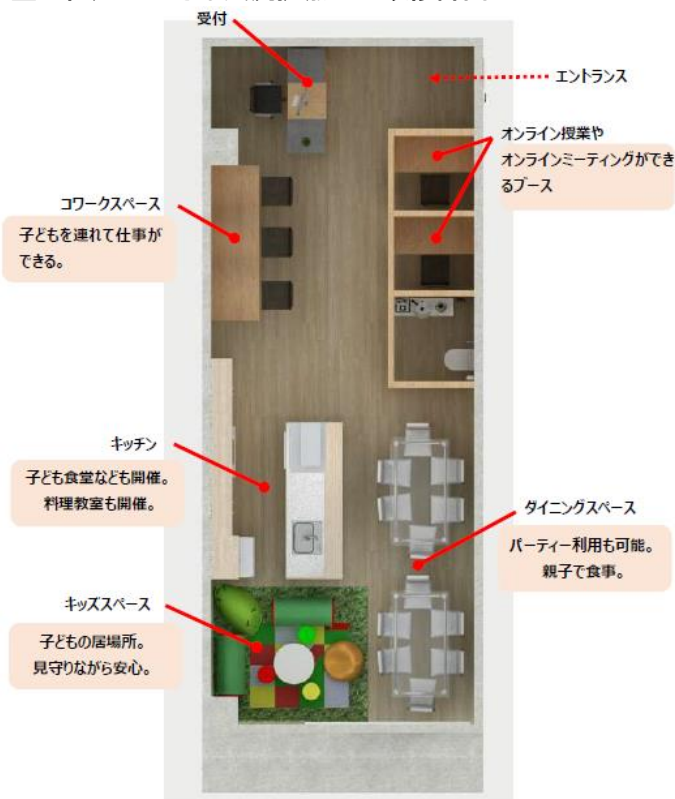
事業実施内容 住宅の改修(5階建て、4戸、小さな交流拠点を併設)、住まいの困りごと調査、小さな交流拠点の満足度調査、整備と運営にかかるルールやマニュアルづくり 等

事業実施期間 令和3年12月～令和4年2月

改修を行う集合住宅の外観



空き住戸の小さな交流拠点への改修計画



子育て世帯向けモデル住戸の改修計画



評価委員会での評価内容

- 既存の中規模マンションのストックを改修し、コロナ後のライフスタイルを見据えた交流や互助の空間を整備するというアイデアは、今後、社会的に求められるものであり、モデル的に試行錯誤を重ねることは有用である。
- 交流拠点の整備においては、多様な目的を1つの空間の中で受け止めるにあたって、音環境や材質者密度などの観点で課題が生じないか十分に検討することが望まれる。